

国際
交流

ボランティア

ぼろんていえ

Volontiers!

2019年11月
Vol.113

【編集/発行】
(一財)町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター

～町田国際交流センターだより～



8月22日(木)

国際交流センター
講習室

今年の小学生のための国際理解体験は「世界がもし100人の村だったら」のワークショップを行いました。このワークショップは、様々なゲームをしながら世界の多様性や格差を体感することができます。参加者数は小学校1年生から5年生までの30名でした。

ワークショップでは、世界の様々な言葉であいさつするゲーム、小学生にとってなじみの薄いネパール語を使いながら文字が読めないことを体験するゲーム、クッキーを使って、世界の富がどのように分配されているかを知るゲームなどをしました。

ゲームの後には、世界の現状を知ったあとで、自分にできることを考え発表しました。「募金する」「食料を送る」「学校や病院をたてる」「学校や工場を作るために大工さんなどを送る」「安全な水を届ける」「食料だけでなくすぐになくなってしまいかもしれないから、種を届ける」など様々な意見が出ました。また自分の生活を振り返って、「無駄をやめる」という発表もありました。

様々な年齢の子どもたちが参加したので、知識の量や発言の仕方に差はありましたが、お互いに助け合いながら、最後まで楽しく取り組むことができました。

国際理解部会 福島 智子



ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで (詳細▶5面)

日本語教室で学習している方々の文集 (2018年度) から

だい
題: 私と日本語

なまえ 竹 力 (くに: 中国)
名前: 王 天 娥

らいにちじき ねん がつ
来日時期: 2016 年 8 月

わたしは三年前に日本へ来ました。途中で中国へ帰ったことがあり、日本に実際住んだのは2年くらいです。初めて日本にきた時、日本語が完全に分からなかった。生活は、とても困りました。

日本で生活するために、日本語を勉強しなければなりません。ですから、インターネットで日本語の教科書を買いました。自分で日本語を勉強するつもりでした。

しかし、子供が小さくて、子供に時間が取られてしまっていたので、自由な時間が少ないです。毎日スーパーで買いものしたり、うちで掃除をしたり、料理を作ったりすると、よく疲れを感じていました。主人は中国人ですので、うちでよく中国語を使います。そして、自分がちょっと怠惰がもしれません。なかなか上手にできないんです。

今年の四月から、子供が保育園に通い始めています。あさ8:00から、よる5:00まで、だから、自分の時間がいっぱいあるようになりました。毎日3時間ごろ日本語を勉強するようにしています。でも、まだまだです。

今、子供の日本語がだんだん上手になっていきましたので、母として、これから日本語をもっと頑張らなければならないと思います。

早く、日本語を話せるなりたいです。そして、新しい生活ができます。

【メモ】この文集の内容について、原文のままで載せました。

今回の無料相談会は町田国際交流センター主催で開催されました。

専門家として弁護士2名、行政書士2名、社会保険労務士1名、子育て・生活・教育担当各1名の方にご協力頂き、ボランティアスタッフを含め総勢38名で開催に臨みました。当日は、7名の外国人の方より計9件の相談を頂きました（今回は珍しくフランス語での相談が複数ありました）。全ての専門家の方にまんべんなくご対応をいただき、相談内容が多岐にわたった相談者にも多面的なアドバイスを届ける事ができたかと思えます。

相談内容は、以前から多いビザ関連の他に、子育て、年金のしくみ、住宅購入、運転免許に関するの悩み等がありました。近年の在住外国人の増加に伴い、その相談内容もより日常生活に関わるもの、日本人でも同様に悩むであろうものが増えてきたように思います。

尚、次回への課題として、在住外国人が増えセンターへ相談に訪れる方も増えつつある一方で、専門家無料相談会に訪れた相談者の人数はやや少なかったという点があります。当日のアンケートでは、無料相談会の実施を知ったきっかけとしては国際交流センター、町田市役所、家族・知人経由がほとんどを占めており、インターネット経由は1名、また相談部会が特に力を入れ最寄りの入管で配布したチラシにより訪れた方は

0名という結果でした。その一方で、相談を受けた外国人のほとんどの方からは、専門家、通訳、相談結果いずれにおいても高い満足度を頂いております。専門家無料相談会のような上質な相談機会を活かし、より外国人の方々の生活に寄り添った幅広い支援を行うためにも、今後一層のネット活用、また地域の外国人コミュニティへコンタクトを図る等、広報面の工夫も必要と考えています。 外国人相談部会 西内 りな



相談の様子

納涼盆踊り大会

8月4日(日) 町田駅前カリヨン広場

今年も、町田市にゆかりのある外国の方々に日本の伝統を体験し楽しんでいただく催しのひとつとして、地元町内会「六生会」主催による納涼盆踊り大会に参加しました。今年はインドのご夫婦二組とベルギーの女性一人の参加がありました。

センターでボランティアのメンバーによる浴衣の着付けを楽しみ、盆踊り会場のカリヨン広場へ向かいました。会場では町内会の方々が彼らのそばについて踊りを教えてくださり、また休憩場所では飲み物を用意してくださいました。日本のおもてなしの心を経験できたのではないのでしょうか。

時間を忘れるほどに楽しそうに踊っている姿がとても印象的で、私達ボランティアも一緒に楽しい時間を過ごしました。終了後センターに戻り浴衣を着替えた後も、日本での生活のことやそれぞれの国の慣習などの話で盛り上がり、予定の時間を過ぎてしまいました。がたいへん良い交流ができました。

毎年ご協力頂いている「六生会」の皆様に感謝するとともに、来年も外国の方々に日本の夏の伝統行事である盆踊りを楽しんでもらえるように活動を続けていきます。

国際交流部会 雨宮 洋一



笑顔で集合写真



太鼓体験



楽しく盆踊り

14年目を迎えた“夏休みキッズ英語”！対象学年は小学1年生から4年生です。小学校1,2年生計42名、3,4年生計33名の2コースで、2日間ずつのワークショップを無事に終了致しました。今年は、“外国人講師と一緒に英語を楽しもう”と題して、アメリカのオクラホマ州出身の講師 Robert 先生をお招きして、チーム・ティーチングで、楽しく“生の英語”に触れていきました。映像を使って、Robert 先生が自己紹介・オクラホマ州について話してくださいました。敷地の広い家の写真や竜巻の写真を見て、子どもたちは、驚嘆していました。

このワークショップの狙いは、英語嫌いにならないこと、英語に慣れ親しむこと、「英語は楽しい！」と感ずること、お友達とのコミュニケーションを取ることを基本に行っています。子どもたちは、小学校でも外国人講師から英語を学んでいるので、みんな積極的に話しかけている姿が見受けられ、Robert 先生の問いかけにも一生懸命答えていました。“生の英語”に自然に触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

例年通り、体を動かしながら、音楽に合わせて、ジェスチャーを入れながら歌ったりしました。子どもたちは、

動きがはいることにより、自然に口ずさみ、楽しむことができます。ABC song の日本人には難しい C, F, V などの発音もしっかり指導していただきました。アクティビティとして、チーム対抗でゲームをしながら楽しく、英語表現も言えるようになり、皆で協力して、盛り上がっていました。特に「竜巻ゲーム」は子どもたちは、大好きです。

この町田国際交流センターで行うキッズ英語は、単なる英語学習ではなく、コミュニケーションの一つとしての英語を目標としています。「間違っても良いから、声を出して言ってみよう！」まずは、口に出してみる勇気を出すことです。参加してくれた子どもたちは皆、頑張っていました。2020年オリンピックに向けても、たくさんの外国人の方々を訪日します。英語のみならず、様々な言語に興味を持って、語学が楽しいと感じ、自信につながれば良いなあと思います。他者を思いやる気持ち、それをもとに自己表現ができる力を身に付けて、世界に羽ばたいてほしいと願っています。

Let's enjoy English!!!!

キッズ英語講師 陽田 久美



一緒に笑顔で。



積極的に手を上げます。



楽しく英語体験中。

子ども山車巡行（町田天満宮秋季例大祭）

9月22日(日) 町田カリヨン広場

今年も、原町田六丁目町内会「六生会」主催の「子ども山車巡行」に参加しました。台風17号の影響で雨の予報でしたが、子どもたちの元気が雨を吹き飛ばしてくれたようです。

中国、台湾、フィリピンなどの計7名の子ども達とご家族、スタッフ9名で参加しました。子どもたちは、はっぴを着て嬉しそうに写真に収まった後、外に出て「わっしょい！」のかけ声とともに山車をひき商店街を練り歩きました。途中の休憩地点で、町内会から提供された飲み物やお菓子をいただきました。



山車巡行中



集合写真

休憩の際に大きな太鼓をたたかせてもらい、嬉しそうにしている子どもたちが印象的でした。

参加したご家族の方が「近所のお祭りを見て、子どもがはっぴを着てみたい、と言っていたので、今回参加しました。子どもがとても喜んでいました」と言ってくださいました。

このような交流の場に少しでも多くの方が参加していただければ嬉しいです。

国際交流部会 井上 章

ナミビアを知ろう ～留学生から話を聞く会～

9月16日(月) 国際交流センター

ナミビアチームが町田にやって来る!! ラグビーワールドカップ

ナミビアって国、どこにあるの？ラグビーワールドカップが、2019年9月20日から日本で開催されています。

ナミビア代表チームが町田市でキャンプを行いました。ナミビアの選手達を応援するためにも、ナミビアのことをもっと知りたい。

ナミビアについて、ナミビアからの留学生ノラ・リディア・ンガシゼコさんに講演をお願いしました。

ナミビア共和国は、アフリカ大陸の南西部に位置し北にアンゴラ、北東にザンビア、東にボツアナ、南に南アフリカ共和国と国境を接し、西は大西洋に面する国ということを知りました。また、ナミビアという国名は、世界最古の砂漠と言われる「ナミブ砂漠」にちなんで付けられたことも初めて知りました。講演は、その後ナミビアの経済、歴史、民族、また、ラグビーの話題へと進み終了となりました。

私自身もナミビアのことは遠いアフリカにある国という知識しかありませんでしたが、今日

講演を聞き、少しではありますがナミビアの一端を理解できたと思います。ナミビアという国を知り、文化を知り、人を知ることにより、ナミビアラグビーチームの応援にも力が入ることと思います。この講演会をよい機会と捉え、ナミビアとの交流が図れたら、喜ばしい限りではと思います。

今回、通訳をしていただいた Welcome to MACHIDA Omotenashi PJTの戸田さん、また、講演をコーディネートしていただいた広報部会の荒明さん、最後に講師を引き受けていただいたノラ・リディア・ンガシゼコさんに感謝いたします。

事務局 足立 能仁



ノラ・リディア・ンガシゼコ講師



ナミビア共和国の紹介

「東京科学少年応援計画」代表生地 陽 氏にインタビュー

Q：どんな活動をされているんですか？

A：基本的に4つです。①ベトナムの子どもたちに奨学金を贈っています。②ミャンマーの村にミニ図書館をつくって本を贈っています。③町田市内で「こども支援教室まちだ」を開いています。④在日外国人の支援をしています。

Q：いろいろなさっているんですね。

いつ頃からはじめられたんですか？

A：活動は2009年から代表である私の個人的な活動、協力者を探すことからスタートしました。3年が経過する中で、日本、ベトナム両国に賛同者、協力者があられ、約10人のグループに育ってまいりました。2010年3月にベトナムホーチミン市を訪問、現地の学校、養護施設、農村を訪問し、このうち、ベトナム南部の村で低所得世帯に暮らす3人のこどもへ奨学金を支給することからスタートしました。また、メンバー以外に、大小さまざまな支援をくださる協力者にも、両国でめぐまれております。2012年より町田市ボランティアセンターの登録団体になりました。これ以降、毎年、3月と8月に現地を訪問し、2019年8月現在10名のこどもたちを応援しています。

Q：すばらしいですね。

「旅するボールペン」というのはどんな活動ですか？

A：友人と話している時に思いつきました。皆さん、色々なところでノベルティとしてもらったボールペンを全部使いますか？「使わないでいるものが多いよね」という話になりました。そこでインターネットでそんなボールペンを集めました。あまり期待していなかったのですが、おどろくことに1年で一万本集まったんです。ベトナムに送りました。最初に行くときに持っていったのですが、本数がものすごく多くなってきて運搬に苦労するようになり、今は船で送っています。

Q：使わないものを必要なところへ届けるというすばらしい発想ですね。何か、最近の話題はありますか？

A：ミャンマーのインド国境に近いところへ行ったことです。ヤンゴンからマンダレーを経由して大きな石がゴロゴロしている道を数時間行った先の村です。電気も水道ありませんが、携帯電話とSNSは使えます。到着してみると子どもだけでなく、村人が50人くらい集まっています。「何だろう」と思ったら、なんと外国人が来たのが初めてだったんです。おまけに警察からは、前もって、連絡してほしいといわれました。その小学校にボールペンと本300冊を贈りました。

Q：すごい思いをいらしたんですね。

今後はどんな活動をされていきますか？

A：ベトナムはかなり経済状況もよくなってきているように見えます、それに比べて、ミャンマーはまだまだかなという印象です。一人の子どもに奨学金を与えるという活動よりも、環境を整える方法を考えていきたいと思います。ミャンマーの村にミニ図書館を整備するのもそうですし、ソーラー発電機の寄贈も行いました。

ありがとうございます。
ますます仲間が増え
活躍されることを
祈っています。



編集後記

秋。さわやかな季節となってきました。読書にもよし、勉強にもよし、そして遊びにも。

でもでも、運動不足は続いたままです。何か運動しなくてはと考えて、ウォーキングを計画したのですが、今日は暑いから、寒いから、雨がふりそうだからと、何か理由をつけて中止することが多い毎日です。このまま、食欲の秋に突入することになりそうです。結果はどうなることやら。おそろしいです。何をやるにも良い季節です。おいに運動して、大いに食べて、大いに遊んで、長い夜には本を読んで過ごしたいと思っています。皆様はどのようにすごしますか？

「第15回 昭和薬科大学・町田市共催講座」 ～地域医療とは、在宅医療とは～

今年度は「地域医療とは、在宅医療とは」をテーマに、昭和薬科大学教授の宮崎美子氏が「地域医療で質の高い医療の提供とは」を、へき地医療に携わられている医師の兼村俊範氏が「在宅医療の現状について」を、それぞれ講演し、質疑応答も行います。

対 象 どなたでも

日 時 11月30日 (土)

午後2時から4時 (午後1時30分開場)

会 場 町田市生涯学習センター 7階ホール
(町田市原町田6-8-1 町田センタービル内)

定 員 158名 (申込順)

申 込 11月初旬から電話で、町田市イベントダイヤル (042-724-5656) へ。町田市のイベント申込みシステム「イベシス」での申し込みも可。詳細は広報まちだまたは町田市ホームページをご覧ください。



※写真はイメージです

問 い 合 わ せ

町田市生涯学習センター

〒194-0013 町田市原町田 6-8-1 TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073

休館日 毎月第4月曜日 (祝日の場合は翌日) および年末年始 (12月29日～1月3日)



ホームページをご覧ください!!

アドレス <http://www.machida-kokusai.jp>

新しい情報がいっぱい!!

町田国際交流センターのホームページでは、センターが開催する講演会や外国人向けの相談会のお知らせのほか最新の情報を提供しています。

また外国語版のページでは、「日本語教室」など、外国人の方々が地域で暮らすのに必要な情報を英語で提供しています。

今後も楽しいコンテンツづくりを目指していきます。是非、ご活用ください。

(一財)町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

<http://www.machida-kokusai.jp>

E-mail:info@machida-kokusai.jp

事務局からのご案内・募集

「広報部会」ボランティア募集

活動内容

国際交流センターおよび、その事業を、広く市民の方に伝えるための活動をしています。
情報誌「ぼろんていえ」を発行し、センターのイベントやボランティア活動の楽しさを伝えていきます。その他、「夢広場」や「まちカフェ」などの市民イベントに参加し、PR活動を行っています。



「外国人相談部会」 中国語または韓国語ボランティア募集

中国語、韓国語のボランティアを募集しています。
私たちと一緒に活動してみませんか。

活動内容 外国人相談、通訳、翻訳など

活動場所 国際交流センター内（木・土）（外国人相談）
病院、市役所、学校など（平日）（同行通訳）

ぜひ一度、見学においでください。（木・土 13:30～15:30）



「子ども教室」ボランティア募集中

町田国際交流センターの子ども教室では、外国に関わりのある小中学生に日本語の支援をし、学校の学習のサポートをしたり、子どもたちの話し相手になってくれるボランティアを募集しています。
現在活動中のボランティアは高校生、大学生から社会人、主婦など、年代も職業も様々です。
外国語が話せなくても大丈夫です。子どもが好きな方、国際交流に興味のある方、私たちと一緒に活動しませんか？

活動日時 第1～第4土曜日
9時40分～12時30分くらい

活動場所 町田市民フォーラム 4F



詳細は、町田国際交流センターにお問い合わせください。

〒194-0013 町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム 4F
TEL 042-722-4260 E-mail info@machida-kokusai.jp